

精密工学専攻
特別演習
履修要領

2016年度

本要領は 精密工学専攻特別演習（通年6単位）の履修要領を定める。
受講者は、本要領の定める、履修資格、受講登録方法と時期、提出物、提出と発表の時期、提出物等の量と質、を十分に理解すること。
工学系の定める時期に履修登録を必ず行うこと。所定の時期に研究概要を提出しない場合は審査教員が決定されず、審査の対象とならない。

記

1. 概要

受講者自らの学問的興味に基づき、研究テーマの選定、研究手法の検討、スケジュールリング、研究実施と考察、発表、論文作成を行うもので、オリジナリティのある研究の実現方法を体得することを目標とする。一年間の意欲的な研究の結果を示す充実した内容であることが求められる。なお、題目と内容は事前に指導教員と相談すること。

内容は以下の二種類から構成され、受講者はどちらか一方を選択する。

(a) **自主研究**：修士論文、博士論文のための研究以外に、自らの学問的興味に基づき理学、工学等の分野において自主的に行なった実験、計算等。そのいずれにおいても、受講者のオリジナリティ、主張、その根拠が盛り込まれていることを不可欠とする。自主研究で発表した内容については、修士論文、博士論文のなかでその独創性を主張できない。

(b) **文献調査**：修士論文、博士論文に関連した、あるいはそれ以外の特定の研究分野を対象とする包括的な文献調査。調査結果の中には、文献の内容はもちろんのこと、受講者自身による、調査対象に関する研究動向のまとめ、これから進むべき方向についての新しい視点・見解が盛り込まれていることを不可欠とする。

インターネットでの調査、レビュー論文は評価対象としないので十分気をつけること。

2. 受講資格

特別演習M 修士課程所属の大学院生

特別演習D1, D2 博士課程所属の大学院生（※）

※ 特別演習D1とD2を同一期間に重複して履修することはできない。

いずれの特別演習も、原則として、最終年度での履修を認めない。

やむを得ず、最終年度に履修を希望し、審査が課程修了時に重なる場合、必ず指導教員を通じて申し出を行い、受講の許可を得ること。

3. 登録時期

それぞれの年度の4月と10月の授業履修の時期に他の講義の履修届と同様に工学系研究科への登録を必ず行うこと。

4. 提出物

指定された時期（別表参照）に研究概要を提出すること。

指定された口頭発表時に報告書を提出すること。

5. 口頭発表

審査教員決定の発表に基づき、各人が自らの責任で審査教員2名と連絡をとり、発表の日時、場所を定めること。所定の期間内に口頭発表を行うこと。

1月15日まで（4月履修開始の場合）

7月31日まで（10月履修開始の場合）

発表時間：口頭発表 60分，質疑応答 30分程度

なお、文献調査の場合は、口頭発表時に調査対象とした研究論文をファイリングしたものを持参し回覧すること。

6. 提出物の内容

研究概要

学会予稿程度の研究概要を提出する。分量はA4用紙1枚。

自主研究・文献調査の区分、研究題目、氏名、学年、学籍番号、指導教員名を冒頭に明記すること。

期日までの研究概要の提出のない者は未受験とし、口頭発表を行わない。

研究概要提出後、口頭発表を行わない者は成績を「不可」とする。

報告書

（発表時の提出物）口頭発表時に論文形式の報告書、および発表原稿（スライドをプリントしたもの）を2部提出する。一年間の意欲的な研究の結果を示す充実した内容であることを必要とする。また、雑誌等への自身の投稿原稿もそのままでは報告書としては受けつけない。

（発表後の提出物）論文形式の報告書（最終版）を下記の期日までに提出する。口頭発表での副査からの指摘を加え、完成度を高めること。

1月31日までに提出（4月履修開始の場合）

8月10日までに提出（10月履修開始の場合）

成績は、発表ならびに論文形式の報告書（最終版）に基づき評価する。

(a)の自主研究の場合、構成は修士論文、博士論文に準じたものとする。実験、計算の何れであれ、受講者のオリジナリティ、主張、その根拠が盛り込まれていることが不可欠である。このカテゴリーの場合にも、研究の背景、その研究を行う理由を説明する必要がある、先行研究の調査や、論文調査が求められる。

(b)の文献調査の場合、調査する文献の数は、特別演習Mでは、原著論文を30編以上、特別演習D1, D2では50編以上を標準とする。二次資料や学会講演予稿、Web資料などではなく必ず原論文を読むこと。文献調査として包括的に調査しているか、偏りが無いのか、新しい成果を見逃していないかなど、文献の選定に留意すること。文献著者の主張や見解と共に、受講者自身による、調査対象の研究分野全体の研究動向のまとめ、これから進む方向に関する独自の見解を明らかにし、報告書として筋の通ったものにする。文献の概要の羅列、図の切り貼りを説明でつないだだけのもの、ホームページの内容の紹介は特別演習として認められない。文献調査の内容は、関連した学会誌レビューペーパーなどを参考とすること。ただし、参考としたレビューペーパーやインターネットでの調査は評価の対象とならない。

報告書の体裁は、修士論文、博士論文に準じたものとし、分量は30～50ページ以上を目安とする。

7. 提出書類、提出期間、提出先、注意点等

末尾（別表1）に定める。

[重要] (別表1)

提出書類、提出期間、提出先、注意点

(2015年10月, 2016年4月/10月履修開始者)

工学系への履修登録に加えて, 以下の提出を要する.

科目	履修開始時期	提出物	提出時期/説明	提出先
精密工学特別演習 M, D1, D2	2015年10月	研究概要	翌年4月第3週~4月末日	精密工学専攻 事務室
		報告書と発表資料	□頭発表時 * 2部提出 * □頭発表を7月末日までに実施のこと	審査教員
		報告書 (最終版)	翌年8月10日 * 2部提出	精密工学専攻 事務室
精密工学特別演習 M, D1, D2	2016年4月	研究概要	10月第3週~10月末日	精密工学専攻 事務室
		報告書と発表資料	□頭発表時 * 2部提出 * □頭発表を1月15日までに実施のこと	審査教員
		報告書 (最終版)	翌年1月31日 * 2部提出	精密工学専攻 事務室
精密工学特別演習 M, D1, D2	2016年10月	研究概要	翌年4月第3週~4月末日	精密工学専攻 事務室
		報告書と発表資料	□頭発表時 * 2部提出 * □頭発表を7月末日までに実施のこと	審査教員
		報告書 (最終版)	翌年8月10日 * 2部提出	精密工学専攻 事務室

注意点:

題目と内容は事前に指導教員と相談すること.

途中で研究の進行状況を聞くことがある。

期間外の提出物は受理しない。

研究概要に基づき審査教員が2名決定される。履修者の責任で審査教員2名に連絡をとり、
口頭発表日と場所（会議室）を決定すること。

発表の遅刻は減点の対象となる。

研究概要を提出した上で、口頭発表もしくは報告書提出を行わない場合の成績は「不可」となるので注意すること。

成績評価は、口頭発表と報告書（最終版）の内容に対し、要項の基準に基づいて行う。

以上